

## “サツキ”

新潟市医師会  
理事 荻莊 則幸

国民総医療費は、毎年 3%も上昇し 2012 年度は 35 兆円、介護保険給付も毎年 10%も上昇し、2012 年度は 8.4 兆円とそろそろ 10 兆円に迫る勢いを何とか食い止めるために、国はあの手この手の妙案を次々と打ち出している。

75 歳以上人口の割合は、現在 10 人に 1 人であるが、2030 年には 5 人に 1 人、2055 年には 4 人に 1 人になると推計されている。人口構造でも現在 1 人の高齢者を 2.6 人で支えているが、少子高齢化が進む 2060 年には 1.2 人で支えることになる想定されている。また高齢者の 9 割以上が在宅生活、要介護認定を受けている高齢者の 8 割が在宅生活である。2030 年には約 50 万人の人が死に場所を失うといわれている。

そこで今後の医療・介護の提供体制として、約 10 年以上前から徐々に整備を進めてきたのが“国策”としての「地域包括ケアシステム」である。おおむね 30 分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域（中学校区）を単位として、その中で住まい、医療、介護、予防、生活支援を一体的に提供し、要介護状態になっても住み慣れた地域で人生の最後まで自分らしい暮引きを続けることができるようにするシステムである。

このコンセプトは決して新しいものではなく、1994 年に WHO で定義された地域リハビリテーション（CBR）を受け 2000 年に厚労省は地域リハビリ支援体制整備推進事業を開始している。

介護保険制度の創設の後、平成 18 年度からは地域密着型サービスが開始されている。この中には地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（いわゆるミニ特養）、複合型サービス（小規模多機能型居宅介護と訪問看護の組み合わせ）、平成 24 年 4 月から開始された定期巡回、随時対応型訪問介護看護、その他、特定施設入所者生活介護、認知症対応型共同生活介護と通所介護が含まれている。また、これらの事業主体はほとんどが民間であり、民間活力を最大限利用している。

ここで、このシステムのシェーマをよく見ると実は、この“国策”と称する「地域包括ケアシステム」の中核、キーワードは「住まい」である事が分かる。「自宅」でも「施設」でもなく第 3 の「住まい」である。この意味するところは、在宅で高齢者をケアするために、ケアしやすい「住まい」に早く住み替えてくれと、すすめている。

そのために「高齢者の居住の安定確保に関する法律（高齢者住まい法）」を改

正し、平成 23 年 10 月より、「サービス付き高齢者向け住宅の制度」が開始された。この法律は国土交通省の管轄であった「高円賃」、「高専賃」、「高優賃」と呼ばれていた住宅の整備と厚労省の管轄の「有料老人ホーム」の問題点を整理するため、国交省と厚労省の共管した法律となった。従来の福祉施設の利用権方式ではなく賃貸借方式にすることで利用者のそこに住む権利を保障し、また、要介護度が比較的低い「1~2」の人にちょっとしたサポートをすることで在宅生活を継続できるための環境を整える。すなわち介護・医療と連携して、生活を支援するサービス付き高齢者住宅（サ高住、サツキ）の整備を進めることを目的とした。

つまり地域包括ケアシステムの中核の「住まい」の場として、「サツキ」は大変重要な位置を占めている。この制度が開始され、1 年半経過した平成 25 年 4 月 30 日現在ですでに 11 万戸以上が登録されている。

この「サツキ」の供給促進施策は、新築で 100 万円／部屋（18~25 m<sup>2</sup>／部屋）つまり 30 部屋を有する建物で 3,000 万円の補助が国から出る。最近では東京都でさらに上乗せで 100 万円／部屋を補助する予定にしている。また、所得税、法人税、固定資産税、不動産所得税も控除する、優遇措置を導入している。

最近では、地方自治体が音頭を取って「サツキ」を 3~5 階部分に、下の 1~2 階部分に診療所、薬局、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、デイサービスセンター、小規模多機能型、24 時間定期巡回サービス等々の複合的機能を持つ建物の整備を進めています。新潟市も平成 25 年 10 月の開設を目標に民間事業者建築費の約 40%を補助金（国と市より）として支出して、在宅医療・介護支援モデル事業として、この「サツキ」と複合型サービス事業所の一体的整備を進めている。医師会に対しても医療面での協力を求めています。

「サツキ」は施設ではなく、賃貸借方式の共同住宅であり、あくまで利用者の意思が尊重される個人の「住まい」です。「サツキ」の入居者に、在宅医療（往診、訪問診療）を診療所が必要に応じて提供できる。そのため最近では、開業医が有床診療所から「サツキ」診療所に移行したり、もしくは「サツキ」を新規開設する例が見受けられます。